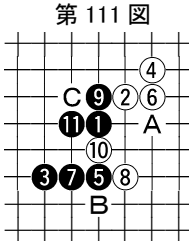


彗星ガイド (12)

九段 河村典彦

いよいよ、一番彗星らしい白4の登場だ。

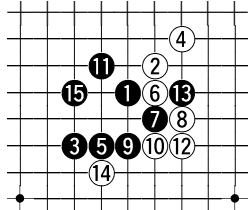
【第111図】白4までの形は見ての通り線対称形となっている。彗星特有の防ぎと言えらるだろう。線対称なので黒5は右半分（あるいは左半分）を調べればよいことになる。



【第111図】

まずは、いつもの黒5だが、これは黒勝ちとなる。白6でうまくけん制する手がないからである。例えば白6なら、黒7から追い勝ちとなる。白6をAなら、今度は黒7白8後Bから追い勝ちとなる。白6で9ならもろろんCだ。

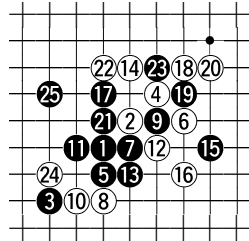
第112図



【第112図】この黒5も前図と似たような状況で、やはり黒勝ちとなる。黒9と引けては前図と同じなので、それをけん制する白6ぐらいが他の防ぎとして考えられる。ただ、これには単純に黒7と押さえておいて良い。白は防ぎに行くのと黒に好き勝手手を打たれてしまうのでもかくけん制するしかない。白8はひねり出したけん制なのだが、黒15まで打ってしまえばもうあとは楽だろう。

【第113図】さて、三題目から少々難しくなる。まずは黒5。これにはまずは縦の三をけん制したいので白6が目につくが、ここで黒

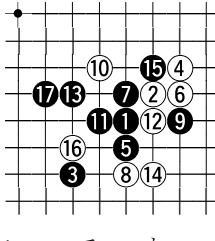
第113図



【第113図】次に単純に白6の防ぎが考えられるが、これには黒7と引き、白8に黒9と押さえておく。白10を12は一路下に押さえられてしまうので、白も少々ひねって白10と筋を止めておく。黒11のあと、気持ちとしては15に三々を止めておきたくなるが、ここは黒13と引いて白14に手順に黒15と引いた方がわかりやすい。白16に黒17の呼手が絶好で、これで白

7が妙手。白の引き筋を巧みにけん制している。白8で12なら、黒8と引いて黒追い勝ちとなる。そこで先に白8と止めるが、黒9から引き出して黒13と一旦止めておく。白14、16と引いてから白18が含まみ手となるのが黒にとつて怖い手だが、黒21、23でうまく受けられる。白24の外止めにも黒25で黒勝ちとなる。

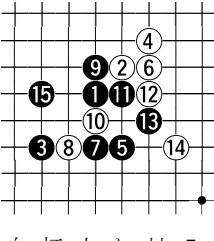
第114図



は手も足も出ない。

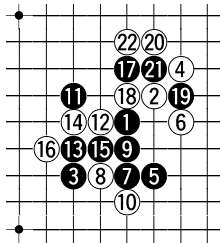
【第114図】先程の黒5はおそらく打たせてはくれないので、四題目以降の黒5の打ち方が勝負となる。この黒5が黒白とも難しい変化をはらんでいる。対して白6と組みたくなるが、それは黒7から黒9と押さえ、黒11と止めておいて黒十分となる。白12から14には黒15と呼手を打っておいて十分の態勢となる。白はこの白6では不満だ。

第115図



【第115図】さて、三題目から少々難しくなる。まずは黒5。これにはまずは縦の三をけん制したいので白6が目につくが、ここで黒

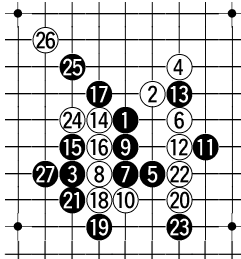
第116図



【第116図】白6はこちらの方がいいけん制手になっている。黒7から9と引いていけるので黒やったと思うが、黒11から引いていくと詰まってしま

う。特に黒17と引かされるのは痛く、一旦黒19と休むしかない。白20では素直に止めるのもあるし、こうやって攻めを見せるのもありそう。黒11から引き出すのはちよつと無理筋だろう。

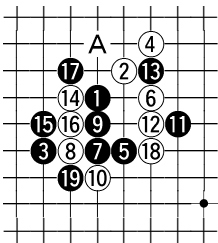
第117図



【第117図】黒は11と単に止めるのが有力だろう。対して白は12から14と防ぐのが自然だろうか。黒15と打ち、白16に黒17と上から止めるのは必然だが、白18、20で三々禁になりそう

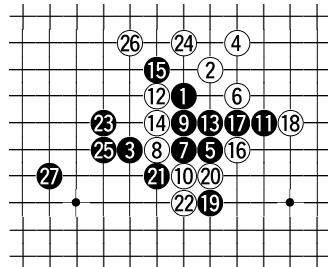
に見える。しかし、黒21の外止めで受かっており、しかも黒が外側に回って有利となる。
黒27まで打って左辺が厚いので以下黒勝ちとなる。

第118図



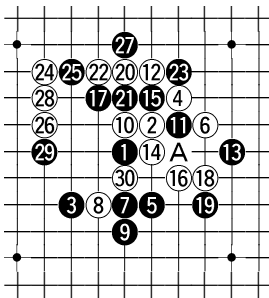
【第118図】前図では白不満として、白18をこちらに打っておくのもある。これには当然黒19と止めておいて黒が有利だろう。こうして見ると、白12と黒13の交換があまり役に立っていないことがわかる。
また、黒11でうっかりAに打ってしまったと白に三々が残り黒どうしようもなくなるので要注意。

第119図



【第119図】というところで、白12では単に防いだ方が強い。続く黒13に白14をうっかり中止めしてしまうと黒勝ちとなってしまう。白は14と外止めする方が強く、黒は利き筋を使つて白模様を止めた後、黒21と休んでおく。白22には黒23と突き出し、左辺で勝負をかけることとなる。白24には黒25と組むのが常道で、白の防ぎの変化も多い。白26と白は欲張りたいが、黒27と打てば左辺の広さがぎりぎりあって何とか勝てそう。白26での変化が残っているが、まあ何とかなるだろう。

第120図



【第120図】白6とこちらに開いておくのもある。115図と同じように黒9から10、14と打つと、白12をAと打たれてしびれてしまうので、今度は黒9と打っておく。対して白中止めは下辺で黒に追い勝ちがある。白10の外止めは必然で、黒11と交換して白の勢力がだんだん弱められていく。こういう展開が彗星には多い。白は12から残された筋を使つて防いでいく。白18は白20を含み手にするための一手で、白22と引けるので白24、26が狙いとなる。白30に手を回しては、混戦だろう。黒としても黒3の石が使える展開となるのでまあ満足と思つていい。

【第119図】というところで、白12では単に防いだ方が強い。続く黒13に白14をうっかり中止めしてしまうと黒勝ちとなってしまう。白は14と外止めする方が強く、黒は利き筋を使つて白模様を止めた後、黒21と休んでおく。白22には黒23と突き出し、左辺で勝負をかけることとなる。白24には黒25と組むのが常道で、白の防ぎの変化も多い。白26と白は欲張りたいが、黒27と打てば左辺の広さがぎりぎりあって何とか勝てそう。白26での変化が残っているが、まあ何とかなるだろう。